



アメリカの食品中傷法

私の読んだ本
「フードインク」

映画「フードインク」
については62号で触れた。今回の本「フードインク」は、食品会社（「フードインク」）にまつわる話題をロバート・ケナー監督等、十余人が書いた本だ。

大腸菌に汚染されたハンバーガー

大腸菌に汚染された肉を使ったハンバーガーを口にした二歳の子供が、溶血性尿毒症症候群で亡くなった。しかし、汚染された肉の回収に数週間を要し、その間、汚染肉が市場に出回っていた。その子の母親に「その後家族の食生活に何か影響は？」と聞いたところ「訴えられるかも知れないから、答えられない」と云う。

食品中傷法

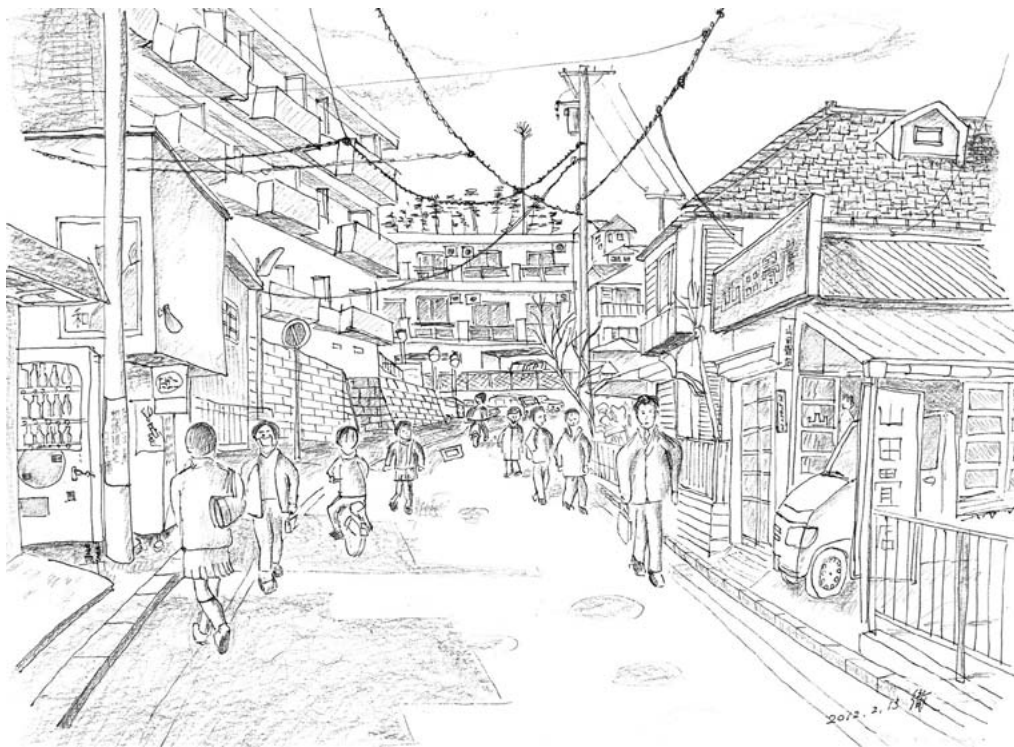
アメリカの十三の州には「食品中傷法」（別名、農産物名誉毀損法）がある。これで、食品業界は自社の製品の質を批判する人を簡単に訴えることが出来る。

自由にもも云えない

彼女の真情は「あんな汚いハンバーガーはもう食べない」であろう。でも、もし、そう云ったら「その論拠はおかしい」「名誉毀損だ」等と会社の弁護士達が責める。反論しきれなければ、膨大な損害賠償が要求される。そんな危険なことではきないと皆黙ってしま

う。アメリカは自由にものが云える国の筈なのに・・・
皆さんはどう思われますか？

永田南への切り通し



横浜は海拔五、六十メートルの台地と海面近い低地とからなっている。その台地をいくつもの川が削り、谷を刻んでいる。

京浜急行弘明寺駅を出て北に進むと、浅い谷に出る。そこが六ツ川街道。それを渡って、更に北に進むと、台地を削って作られた、この切り通しになる。絵の正面の切り通しを抜け、更に坂を登り切った台地の上に我が家はある。

この切り通しがなかった三十数年前、駅に出るには毎日山越えをするか、バスで大回りをするしか無かった。今では、通勤通学で沢山の人が行き交う。朝夕は車両通行止めが安心だ。バイクの人は押し通っている。

来週はお休みします